

学校図書館支援センター通信 NO.22 6月号

平成21年度(2009年度) 市川市学校図書館支援センター(市川市教育センター)



これからの学校図書館活用!

～子どもの読書サポーターズ会議「報告」より～

文部科学省内に設置されている『子どもの読書サポーターズ会議』(座長:片山善博・慶應義塾大学法学部教授、前鳥取県知事)が、平成21年3月に審議会報告「これからの学校図書館の活用の在り方等について」をまとめ、公表しました。

平成21年度を迎えた今、その要旨を確認し、これからの学校図書館機能とその活用の方向性<6つの視点>を見定めながら、全校でさらに「学校図書館活用の高度化」を図っていきたいと思います。

「これからの学校図書館の活用の在り方等について」(審議会報告) 要旨抜粋

I 学校図書館の位置付けと機能・役割

2 学校図書館の機能・役割

- (1) 児童生徒の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能
- (2) 教員のサポート機能
- (3) その他の機能 ア 子どもたちの「居場所」の提供 イ 家庭・地域における読書活動の支援

IV 学校図書館の活用高度化に向けた視点と推進方策

1 視点と取組

- 以上のように、学校図書館に対しては、最近の情勢を受けたさまざまな教育的・社会的要請が寄せられている。こうした要請にこたえるためには、学校図書館のより一層の機能の向上を図り、その活用を高度化していくことが必要となる。
- 本会議においては、これらの新しい要請を踏まえ、学校図書館の機能とその活用に関し、今後求められる方向性を次の6つの視点から捉えることとした。

- 視点① 学校図書館が中心となり、学校における読書活動を多様に展開する。
- 視点② 家庭や地域における読書活動推進の核として、学校図書館を活用する。
- 視点③ 「学び方を学ぶ場」としての学校図書館の整備を進める。
- 視点④ 学校図書館の教員サポート機能を充実させる。
- 視点⑤ 「いつでも開いている図書館、必ず誰かいる図書館」を実現し、「心の居場所」となる学校図書館づくりを進める。
- 視点⑥ 放課後の学校図書館を地域の子どもたち等に開放する。

注) 視点①②は「読書センター機能」の更なる発展、視点③④は、「学習・情報センター」機能の更なる発展、視点⑤⑥は学校図書館を活用した子どもたちの居場所づくり にそれぞれ対応。

- これらの視点に立ち、活用の高度化を進める上で、考えられる取組の例について、以下の通り提言したい。
(※ 以下省略)

※ 上記報告書は、文部科学省ホームページで全文ご覧いただけます。

※ 文部科学省の「学校図書館の活性化推進総合事業」は、上記の審議会報告を受けて企画・提案された事業です。

市川市は、前号でもお知らせしましたとおり、その中の「学び方を学ぶ場としての学校図書館機能強化プロジェクト」の調査研究指定を今年度から2カ年にわたり受けました。

学校図書館員研修会 ～「語りで古典を楽しむ」～ 5月13日(水)

学習指導要領が改訂となり、小学校の国語科に「伝統的な言語文化」の学習が入りました。この2年間は、今までの教科書を使いますので、学校が、その学年に適する学習材を選んで行うことになります。小学校低学年は、「昔話や神話・伝説」とあり、その中には、地域に伝わる伝説も含まれます。市川市にまつわる昔話をまとめた本はありますが、子ども向けにはなっていないために、学習にそのまま使うことが出来ません。そこで、今回学校図書館員の研修として、根岸英之さん(市川文学プラザ司書、市川民話の会)に「地域に伝わる民話の語り」のご指導をお願いしました。

低学年の「伝統的な言語文化」では、話の面白さに加え、独特の語り口調や言い回しを学ぶことをねらっています。まさに、語りは、このねらいにぴったりです。本どおりに語る必要はなく、あらすじを頭に入れたら、相手や場に合わせて語ってよいのです。これが、正しい語りというもの、ありません。語る人の個性で語り、工夫をしてよいのです。そうとわかれば、難しいことではありません。誰でも出来ることなのです。

今回は、その導入を学びました。詳しくは、学校図書館員さんにお聞きください。また、学校に根岸英之さんをお呼びして皆さんで研修するのもよいかと思ひます。「伝統的な言語文化」に積極的にアタックして語り上手をめざしてください。

(指導課 指導主事 渋谷 景子)



市川の民話の語り

図書館の窓から ～ひろげよう!図書館の輪・リレー執筆～

国府台小学校の図書館の窓からは「じゅん菜池」公園が見えます。窓を開ければ、公園の野鳥の声が聞こえてきそうです。そんな図書館の業間休みは、今日も子どもたちでいっぱいです。全学年の子どもたちが集まりますが、皆とても静かに本を読んでいます。図書委員も本の返却や貸し出しなどの当番活動に忙しく取り組みます。

6月にはミニ読書週間があります。各クラスからのおすすめの本の紹介は、どれも力作ぞろいです。「ひとりひとりが素敵な本と出会える図書館」をめざして、図書委員会みんなががんばっています。

(国府台小学校 学校図書館員 吉田寛子)



業間休みの静かな読書

路子の部屋



爽やかな5月のある日、授業で、大学生に絵本の読み聞かせ大会をしてもらいました。

40人近いメンバーが一人1冊ずつお気に入りの絵本を持ち寄り、教室を飛び出してキャンパス内の木陰などで、お互いに読み聞かせし合う趣向です。5～6人のグループごとにお気に入りの場所を見つけ、絵本の世界にどっぷり浸りました。幼い日の思い出の絵本も、大人向けの絵本もありました。語る側の難しさを感じた学生もいたし、聴く側の心地よさが印象に残ったという学生もいました。絵本の言葉のリズム感や内容の深さは、大学生の感性にも響きます。

<支援スタッフの学校図書館訪問>

今年度も支援スタッフの酒井さんが、新任学校図書館員さんの学校を中心に学校図書館を訪問しています。ネットワーク便の受け入れ、図書貸し出し依頼、図書の分類・配架、購入図書の選書、館内レイアウト、掲示物作成など、図書館経営に関するあらゆる実務について、学校図書館員さんのニーズに応じて、助言やお手伝いをしています。日ごろ疑問に思っていることなども、気軽に相談できるのでとても喜ばれています。



「困ったな」「どうしよう」「手がほしいな」など、何でもご相談に応じます。支援スタッフ訪問のご依頼は、学校図書館支援センター(320-3335)までお願いします。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター(市川市教育センター)

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

